



▼ (左から) 国体出場の田上選手、インターハイ出場の狩野選手、大友選手



また、9月26日(日)から千葉県で開催される第65回国民体育大会において、相撲競技(個人の部)に、田上元気選手(熊本農高3年・上早川一区)が出場します。

また、9月26日(日)から千葉県で開催される第65回国民体育大会において、相撲競技(個人の部)に、田上元気選手(熊本農高3年・上早川一区)が出場します。

## 全国大会に出場し活躍

本町出身の高校生らが健闘

今夏に開催された全国大会に、本町出身の高校生らが出場し活躍しました。

7月29日(木) 沖縄県で開催した平成22年度全国高等学校総合体育大会には4選手が出場。体操競技に大友彰選手(学園大付高1年・津志田区)、水泳競技に狩野萌選手(尚綱高3年・中横田区)、陸上競技・3,000m競歩に谷頭聖華選手(熊本商高3年・岩下二区)、同・円盤投げに西山舞選手(松橋高3年・芝原区)が出場し健闘しました。

8月7日(土) 兵庫県で開催した第92回全国高等学校野球選手権大会において、ベスト8に進出した九州学院高野球部には、小山田俊介選手(2年・八丁区)と古閑亮介選手(2年・東寒野区)の2選手が所属。小山田選手は、ベンチ入りメンバーとして出場しました。

## おじぞうさん祭りを復活

仁田子区で約30年ぶりに開催

7月24日(土)～25日(日)仁田子区で、仁田子おじぞうさん祭りが開催されました。

同祭りは、同区(西田安幸区長165世帯)で以前から開催されていたものが約30年前から中断していたところ、今年からあゆまつりの開催に合わせて復活。地域の子もたちの無事成長を願って、区民で華やかに飾られたお社を組み立て、同区の地蔵を集めて祭りました。

お社には、祭りを体験しようと参加した子どもたちと、昔を懐かしむ同区の大人たちが集まり楽しいひとときを過ごしました。



▲仁田子区民で組み立てたおじぞうさん祭りのお社



▶手作りバームクーヘンに挑戦する子どもたち

## キャンプで自然に親しむ

野外キャンプ「あつまれ子どもたち」

7月27日(火)～28日(水) 井戸江峡キャンプ場で、「あつまれ子どもたち」の野外キャンプが行われました。

同キャンプは、1泊2日のキャンプを通して、緑川などの自然に親しむとともに、子どもたちが共同生活を行うことで団体行動の大切さを体験することなどを目的に、甲佐町青少年健全育成町民会議と町教育委員会が主催。町内の小・中学生40人が参加しました。

子どもたちは、各班に分かれて協力して行動。ナイフを使った竹のほし作りや飯ごうを使った野外炊飯、川での水遊び、キャンプファイアーなどを体験。竹に生地を付けながら、炭火で焼き上げるバームクーヘン作りにも挑戦しました。

## 親子で食事を見直そう

「おやこの食育教室」を開催

7月29日（木）町総合保健福祉センターで、「おやこの食育教室」が開催されました。

甲佐町食生活改善推進員協議会（水足輝子会長）と町教育委員会の共催。小学生とその保護者を対象に、調理実習を通して食育について考えるとともに、親子の交流を深め夏休みの思い出を作ることを目的に実施。

教室には、11組26人の親子が参加。「よくかむ献立」をテーマに、食生活改善推進員などの指導の下、ビーンズカレー、切り干し大根サラダ、ニラ焼きせんべいなどを調理しました。



▲親子で協力して調理する「おやこの食育教室」参加者



▲3位に入賞した第2分団第6部の操法員

## 第2分団第6部が3位入賞

熊本県消防操法大会ポンプ車の部

8月22日（日）荒尾市で第28回熊本消防操法大会が開催され、郡代表としてポンプ車の部に町消防団（池田健吾団長500人）から第2分団（松尾憲親分団長）第6部（緑町地区）が出場し、3位に入賞しました。

同部は、7月24日（土）に山都町で開催された郡消防操法大会に、町代表として出場し優勝し、郡代表として県大会に出場しました。

出場した操法員は、指揮者・嶋田全志さん、1番員・山下智博さん、2番員・福岡裕輔さん、3番員・北里雄秀さん、4番員・堀田高志さん、補欠員・山本正勝さん。

個人表彰の部では、3番員の部で北里さん、4番員の部で堀田さんが、最優秀賞を獲得しました。

## 「陣ノ内館跡」の謎に迫る

講演会「新発見！こうさのお城!!」



▲「『館跡』は空堀の規模から推察すると、小西行長が緑川流域の重要拠点として着目し、城を改築した可能性もある」と解説する稲葉教授

8月20日（金）町生涯学習センターで、講演会「新発見！こうさのお城!!」が開催されました。

平成20年度から実施している史跡「陣ノ内館跡」発掘調査の中間報告を目的に、町教育委員会が同センター自主文化事業として開催。町内外から、歴史愛好者など約120人が来場しました。

初めに町教育委員会の西口貴志主事が、現在調査中の「館跡」の概要を説明。「館跡」南側に発見された堀の存在など、調査の成果を紹介しました。

続いて、熊本大学文学部の稲葉継陽教授を講師に迎えて、「14～16世紀甲佐地域の城と『陣ノ内館跡』」と題して講演を開催。稲葉教授は、文献史料や地図などを基に、中世・南北朝期の甲佐地域とその周辺を支配していた阿蘇氏の活動や、当時の緑川流域における交通の要所としての甲佐地域の重要性を解説。「館跡」がある豊内地域には、城下町があった可能性を示唆。

「全国を探しても、『館跡』ほど手付かずの状態が残存している城跡はあまりない。この調査で謎が解明されれば、甲佐町だけでなく、熊本県や九州の歴史にとっても非常に重要なことになる」と述べました。